

キーワード

思考力・判断力・表現力の育成

標 題

自分の考えを持ち、進んで伝えようとする児童の育成の取り組み

①学校の概要（平成25年5月1日現在）

・児童数 61名 ・学級数 6学級 ・教職員数 14名

②取組を始めた経緯

少人数であるために人間関係が固定化する傾向があったり、人前では緊張してしまい自分本来のよさを発揮できなかつたりする傾向があった。
そこで、児童一人一人が自分の考えを持ち、積極的に発表し、自分と友達の考え方や表現の仕方の違いやよさをしっかりと感じ取れるような学び合いの場を設定することが、児童の意欲面の向上だけでなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・表現力の育成につながると考え、取り組みを始めた。

③取組の実施体制

- 校内研修
研究授業公開、講座、課題研修など
- 中学校区連携研究推進
研究推進協議会、研究推進委員会
研究授業公開・参加、全員研修会など

④学力向上に向けた具体的な取組

- 年度初めに、めざす子ども像の具体と方向性を提示し全教職員の共通認識を図る。
- 研究授業公開、授業づくり（「めあての明確化・考えをもつ・まとめる」のある授業）を行う。
- 「学習の10の約束」の指導。重点項目（姿勢・声・ノート）の設定、取り組みのチェック週間を設定する。
- 「学習の手引き」家庭配布、協力の呼びかけ。取り組み週間の設定。
- 補充学習の時間の設定（金曜朝15分、木曜放課後25分／週）をする。
- 縦割り班掃除や集会活動を通じて、下学年児童の世話をしたり、みんなで協力したりする活動を行う。
- 歌声、音読集会を行い、全校の前で一人ずつの発表の場を設ける。
- 各学年「すすめる本20冊」を設け学年に応じた本を選んで読書をすることを勧めたり、読書週間を設け親子読書の取り組みを行ったりして読書の量と幅を広げる。
- 返事やあいさつ、「早寝・早起き・朝ご飯」が自分の生活リズムとして定着するようにPTAとも協力して取り組みをすすめる。
- 中学校区でのおもな取り組み
 - ・各学校の授業公開、授業参観・拠点校授業公開、参観・小中連携授業・共通学習、生活規律・ノーディスプレイディの共通日取り組み等々

⑤取組の成果と課題

- 種々の取り組みが全教職員によって、一体的に取り組めており、家庭での取り組みも協力的である。
- 全員参加による教材研究・指導案検討を行ったことで、共通理解の下に授業研究をすることができた。
- 昨年度に教科指導の匠事業を活用したことで実践的・具体的指導を受けることができ、本年度の指導法改善につなげることができた。
- 学習規律がかなり定着してきた。
- 発表や板書など基本的なことについて全学年共通での取り組みが進んだ。6年間の積み上げにより児童の力がついていくことが考えられる。
- 校内研修での成果や課題を日常的な授業等に十分取り入れられてない部分も見られる。
- 児童が自信を持って発表することができる手立てや学習環境を整える必要がある。
- 補充学習については、担任対応になっている部分もあり、取り組みの共有化を図る必要がある。
- 教科指導の匠事業がなくなり、小規模校にとっては研修成果の遅延を招く結果となっている。

⑥取組の継続・発展の要因

- 児童が授業に対して基本的に学習の構えができています。また、それを支える保護者・住民の存在。
- 管理職と教諭等及び教諭同士のコミュニケーションが良好で考えの浸透や十分な意思疎通ができています。
- 中学校区における様々な交流活動と連携が継続的に行われている。

⑦管理職・中核教員等のアクション

- 管理職
 - ・年度初めに「めざす児童像」をより具体的（現状・計画・方策等）に示し、共通理解を進め、方向性を揃える。
 - ・学力向上に向けた取り組みや運営についての企画・立案の指導・助言を行う。
 - ・教育事務等軽減に向けた支援や指導・助言を行う。
- 中核教員等
 - ・学力向上に向けた取り組みについての企画・立案・運営を行う。
 - ・学び合いのある研修・協働的な職場環境の醸成を行う。

⑧資料・写真等

○めざす児童像「かがやく草加部っ子」【徹底・深化】

かがやき

か 考える子 進んで学び、考え、判断して行動する子供

—いろいろなことに興味・関心を持ち、意欲的に学び、自分の考えを持つ子—

素直でまじめに学習に取り組む子どもたちである。そのような実態を基盤にさらなる自立性を向上させて学力を高めていかなければならない。そこで、自ら進んでコア基礎基本に習熟する力とそれを基盤に意欲的に学習に取り組む志向・判断・表現等を行う。そこで教師は、自己研鑽し授業力を向上させ、一人一人が意欲を持って参加し、確かな学力を育成する。

か がんばる子 自分のめあてを持ち、最後までがんばる子供

—新しいことや困難に立ち向かい、やり逃げようとする強い意志を持つ子—

どの子どもも自分の長所や短所をよく見極め、目当てをもって学習や生活をしている。そのような実態を基盤に一人一人に目標達成に向けてがんばる気持ちとあきらめず、そして最後には、全員に達成感を味わせなければならない。そこで、一人一人にがんばる機会を提供し、学校教育活動を通して、一人ではできないことも、できることを味わわせる。そして、その積み重ねが将来の夢実現の基礎になる。

